

ちくし

呼吸器・乳腺外科のご紹介

一人一人の患者さんに最新かつ最適な治療を提供することをお約束します

ご挨拶

2025年4月1日より呼吸器・乳腺外科教授（診療部長）を拝命いたしました早稲田龍一（わせだりゅういち）と申します。私は、2001年に金沢大学医学部を卒業、同大学の心肺・総合外科に入局し、呼吸器外科を中心に幅広い外科診療の経験を積みました。2014-15年にはウィーン医科大学に臨床留学し、日本国内では得難い経験をしてまいりました。2016年より福岡大学に新たな活躍の場をいただき、呼吸器・

乳腺内分泌・小児外科の岩崎昭憲前主任教授、佐藤寿彦現主任教授、臓器移植医療センターの白石武史教授のご指導のもと診療・研究・教育に従事し、今年でちょうど10年目となります。



呼吸器・乳腺外科教授
（診療部長）

早稲田 龍一

専門領域は呼吸器外科全般で、診療の中心である肺がんの手術から縦隔疾患・肺良性疾患、胸膜中皮腫に対する外科療法、さらに肺移植や気道手術まで広く経験を積んでおり、現代の呼吸器外科で必要とされる様々な手術手技に対応できることが私の強みだと思っています。

この度、呼吸器・乳腺外科には私に加え、呼吸器外科専門医1名（諸鹿）、乳腺専門医1名（小野）が新たに就任し、4名の外科医による診療体制（1名増員）となります。新チーム一同、山下眞一先代教授が創られた筑紫地域における肺がん・乳がん診療をさらに充実させ、患者さん一人一人に最新かつ最適な治療をお届けできるよう精進してまいりますので、地域の先生方には何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



▲呼吸器・乳腺外科スタッフ

いきいき健康セミナー・がんセミナー開催のご案内

当院では、地域の皆様を対象とした「健康セミナー」を、動画配信（YouTube）にて公開しております。ご自宅にいながら、お好きな時間に、パソコンやスマートフォンで健康に関する動画を視聴することが可能です。今後も医療や病気の予防に関する動画を随時公開していきます。

福岡大学筑紫病院
公式YouTubeチャンネル
にて配信中

第29回 がんセミナー

「アドバンス・ケア・プランニングについて
～人生会議ってなに？～」 （約10分）

講師 腫瘍・緩和ケアセンター 医師 箱田 浩介

将来の変化に備え、人生観や価値観、これからの希望について、ご家族や親しい方と事前に考えてみませんか？

第39回 いきいき健康セミナー

「潰瘍性大腸炎について」 （約20分）

講師 炎症性腸疾患センター 医師 高津 典孝

潰瘍性大腸炎の診断や治療方法について、専門医が分かりやすくお話しています。

第30回 がんセミナー

「がん治療と食事
～食思不振・吐き気～」 （約10分）

講師 管理栄養士 伊藤 和

治療中にどんなものを食べたらいいの？食欲がないときに食べるというものはなんだろう？という悩みに対して、管理栄養士がお話しています。

右記QRコードより
アクセスしていただくか、

コチラ

🔍 筑紫病院 公式 YouTube

で、検索し、ご視聴ください。



地域の健康づくり活動支援のため、出張講座を行いました

令和7年
1月25日
(土)

地域の子どもや子育てに関する学習会（ファミリーサポート学習会）として、生涯学習センター（筑紫野市）にて出張講座を行いました。本講座は、筑紫野市のファミリーサポートセンター・ちくしのと共同で行い、「子どもの食物アレルギーとその対応」をテーマに講演しました。

テーマ 子どもの食物アレルギーとその対応

講師：医師 久保田 慧（小児科）



講座の前半は、食物アレルギーとその対応について学び、後半では、食物アレルギーの緊急時対応として使用する「エピペン注射」（サンプル）を用いて参加者の方々と実習を行いました。

最初は「注射」と聞いて、使用することに不安のようでしたが、正しい知識と使用方法を学び、真剣に取り組んでおられる姿が見られました。

また、「もしもの時のための予備知識として大変参考になった。エピペンの実習もあり、実際に使用することができて良い体験になった」とのお声をいただきました。

今後も安心できる子育て支援の和を広げていくため、地域貢献活動に努めていきたいと思っております。

令和7年
1月28日
(火)

地域の健康づくり活動支援として、二日市東コミュニティセンター（筑紫野市）にて、出張講座を開催しました。本講座は、筑紫野市の二日市東高齢クラブと共同で行い、「人生会議、始めてみませんか？」をテーマに当院のがん専門相談員である看護師長と緩和ケア認定看護師の2人が講演しました。

テーマ 人生会議、始めてみませんか？

講師：がん専門相談員 看護師長 吉田 久美（地域医療支援センター）
緩和ケア認定看護師 江島 やよい（地域医療支援センター）



人生会議＝アドバンス・ケア・プランニングとは…

もしもの時のために、あなたが大切にしていることや望み、どのような医療ケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすることです。

講座の後半では、参加者でグループを作り「人生100年これからゲーム」を行いました。「人生会議」と聞くと、重たいテーマに感じますが、人生の最期をどのように過ごしたいか、自分が大切にしたいことをカードゲーム形式で楽しみながら考えることができました。参加者からは「なかなか日ごろ話さないことなので、良いきっかけになった。家族とも考えていきたい」との声が聞かれ、有意義な講座となりました。



紹介受診重点医療機関 地域医療支援病院
福岡大学筑紫病院
Fukuoka University Chikushi Hospital

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目1番1号
Tel. 092-921-1011(代) Fax. 092-928-3890
<https://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp>



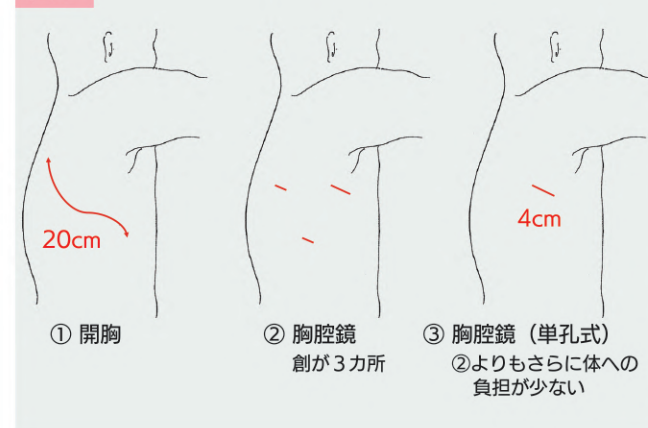
呼吸器・乳腺外科の紹介

呼吸器外科の Topic

肺がんに対する低侵襲手術

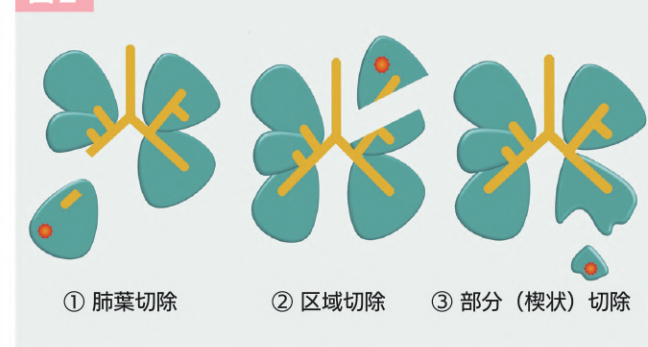
高齢化に伴い増え続けている肺がんに対する手術が呼吸器外科診療の中心です。肺がんの手術の目的はがん細胞を身体からすべて取り除くことですので、一般的に早期の肺がんが対象となります。近年、様々な観点から手術による侵襲（痛み・筋力低下・傷跡など）を出来るだけ小さくすることが重要となっており、大きな開胸創を作らない胸腔鏡（内視鏡）手術が一般的となっています。もちろん、創の大小よりしっかり病巣を切除することが優先されますが、私たちはごく一部の進行症例を除き、ほとんどの症例を胸腔鏡による低侵襲手術で実施しています（図1②）。また、さらなる低侵襲性の実現できる小さな創1箇所のみで手術を行う単孔式胸腔鏡手術についても、適した症例に実施しています（図1③）。

図1



手術の低侵襲化には、創部のほか、もう1つ重要な要素があります。これまで、肺がんの手術において、病巣をしっかりと切り切るためには、肺を解剖学的なブロックで切除する肺葉切除（図2①）が最適とされていましたが、最近の研究結果から、リンパ節転移のない小型の肺がんでは、肺自体を温存する区域切除や楔状（部分）切除の方が治療成績が良く、積極的に実施されています（図2②③）。しかし、一般的に区域切除は葉切除より技術的に複雑であり、肺自体を温存する場合、最適な切除部位を外科医が設定する必要があるため、

図2



技術や経験を必要とします。私たちは、十分な肺区域切除・楔状（部分）切除の経験を有しており、症例に応じて最適な術式を提案させていただきます。

進化する肺がん周術期治療

ここ数年の肺がんに対する薬物療法（抗がん剤やがん免疫療法）の進歩には目覚ましいものがあります。先述の通り、手術は比較的早期の肺がんに対して行われる治療ですが、本来であれば治療の対象にならなかった進行症例も薬物療法と組み合わせることで、手術が可能となり、それにより治癒が期待できる症例があることがわかってきています。特に、病期（ステージ）や肺がんの病理学的特性を評価した上で手術の前後に計画的に薬物療法を組み合わせる最新の周術期治療についても積極的に取り組んでいます。その中で、進行症例、特に薬物療法後の手術は難易度が高いものが少なくありません。時には、通常の肺がん手術では行わない肺の血管や気管・気管支を再建する手術を必要とします。私たちは、この点においても、肺移植や気道手術の豊富な経験があり、技術的に対応可能です。

進行肺がんの患者さんにおいても、関連科（呼吸器内科・放射線科・病理診断科）と緊密に連携し、患者さん一人一人に最適な治療方針を提供し、最良の治療効果が得られるように尽力します。

ロボット手術（da Vinci Xi）を開始します！

ご存知の方も多いと思いますが、我が国においてロボット手術が様々な外科領域に急速に普及しており、呼吸器外科領域においても例外ではありません。ロボット手術は先に述べた胸腔鏡による低侵襲手術の進化形と考えていただくとわかりやすいと思います。ロボットには優れた3次元視覚・多自由度の鉗子・手ブレ補正などの機能があり、人間の手では実現できないような精密な操作を可能にします（図3）。ロボットの能力を活かせば、胸腔鏡では難しいような進行がんに対する複雑な操作を伴う手術も低侵襲手術で実現可能となると考えています。

本年4月より当科でも da Vinci Xi システムによるロボット手術を開始します。診療部長の早稲田は、これまで200例以上の肺がん・縦隔疾患の執刀経験を有しています。ロボット手術にご興味のある方は遠慮なくご相談ください。

多彩な臓器・疾患を扱う一般胸部外科

呼吸器外科は一般胸部外科とも言われ、心臓と食道以外の胸部臓器を広く扱い、疾患も肺がんだけでなく、気胸や感染症などの良性疾患、胸腺腫などの縦隔疾患、胸膜中皮腫、胸壁疾患、横隔膜疾患、外傷、さらに良性・悪性の気道狭窄など極めて多彩です。多彩である一方、

1つ1つの疾患数が多くないため、十分な経験を積むことが難しいといった背景があります。私たちはこれら

稀な疾患の治療経験も豊富であり、お困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談いただけますと幸いです。



図3 ロボットアームの先端で米粒に文字を書いている様子
ロボット手術では人間の手では実現できないような精密な操作が可能

呼吸器・乳腺外科の紹介

乳腺外科の Topic

専門医を含む女性医師中心の診療

乳がんは本邦の女性で罹患数が最も多いがんであり、現在も増加傾向にあります。2019年より当院で開始した乳がん診療も、年々症例数が増加しております。

これまで、先代の山下眞一教授が乳腺専門医として地域に根付いた乳がん診療を充実させて参りました。今年からは専門医の小野をはじめ、2名の女性医師を中心とした乳がん診療を進めてまいります。女性医師だからこそ相談や質問しやすいことがあるかと思えます。

乳がんに関するご不安をお持ちの患者さんはお気軽にご相談ください。

地域の先生方との連携を活かしたスピーディな診断・治療

先述の通り、乳がん患者さんはますます増加しています。そのため、診断から治療までの待機時間が長くなることが

危惧されます。これまで培ったご紹介いただく地域の先生方との連携を活かし、また、診断から治療に至るプロセスを当科の医師が一貫して行うことで、スピーディな診療を実現しています。もちろん、速さだけでなく患者さん中心の医療提供・精神サポートも重要です。少しでも患者さんの精神的な負担が減らせるよう、多職種共同で努力してまいります。

福岡大学病院形成外科と連携した乳房再建

乳がんの切除によって失われた乳房を手術によって創ることを乳房再建と言います。当院では福岡大学病院の形成外科と連携し、術後の整容性・QOLを維持のために、適応のある患者さんに乳房再建を実施しております。乳房再建のご希望がおりの方は、担当医にご相談ください。

呼吸器・乳腺外科診療スタッフ

早稲田 龍一

資格等

外科専門医・指導医
呼吸器外科専門医
気管支鏡専門医・指導医
胸腔鏡安全技術認定医
日本呼吸器外科学会認定
ロボット手術プロクター（指導医）
Robo Doc Certificate
肺癌CT検診読影認定医
移植認定医

諸鹿 俊彦

資格等

外科専門医
呼吸器外科専門医
気管支鏡専門医・指導医
胸腔鏡安全技術認定医
移植認定医

小野 周子

資格等

外科専門医
乳腺専門医
マンモグラフィー読影認定医
日本乳房オンコプラスティック
サージャリー実施医

森下 麻理奈

資格等

外科専攻医
緩和ケア研修
修了医